

令和8年度 第2回 日田管内地域授業改善協議会

7月27日（月）…日田総合庁舎4階大会議室

【協議会目的】

自立した学習者の育成を目指す取組について、情報交換・説明・演習等を行うことにより、各学校における組織的な授業改善の推進に資する。

【情報交換】

「自立した学習者の育成を目指す取組の確認

～各校における1学期の歩みの共有～」

【説明】

「『課題解決型・事実解釈型』校内研究のすすめ

～学校の実態、子どもの姿から～」

【演習】

「2学期に向けた改善方策を探る～自校にどう持ち帰るか～」



☆アンケート記述より：【情報交換】及び【説明】、【演習】を通した参加者の学びや気づき

※生成AI「Gemini」を活用して作成しています。

1. 【情報交換】他校の具体的実践と悩み共有

- 同じ規模感の学校の先生方と交流できたことで小規模特有の悩みを共有でき、どのように校内研究を進めてどのような力をつけていくべきか参考になった。
- グループの先生方が第1回と同じメンバーだったので、年度初めに悩んでいたことのその後の様子や、前回の課題について「結局どうしましたか？」と続きを聞くことができてよかった。

3. 【演習】省察ワークシートによる可視化と改善

- 事実解釈型研究の演習で「解釈の欄に書かれることは、課題だけではない」と言われたことにハッとした。これまで課題や問題点など、悪く言うと粗探しの視点で子ども達を見ていたことに気付かされた。
- シートの記入により校内研究を3段階で振り返り、「実態」「テーマ」「取り組み」「1学期の結果」についての整合性を考えることができた。

2. 【説明】研究スタイルの転換とマインドセット

- 「その時、その子が、何をしたか」という事実を手掛かりに解釈を語り合う形は、自校が取り組んでいる協調学習での学びと共通しているところがたくさんある。
- 仮説検証型と課題解決型・事実解釈型の比較について、新しい学びができた。子どもの姿（学びの事実）を中心にした授業づくりのサイクルを自校でいかしていきたい。
- これまでの研究主任としての経験から、校内へ広げることの大変さを感じていた。今回の説明を聞き、職員の皆さんが取り組みやすい方法にシフトしなければいけないと思った。

「情報交換シート」及び「省察ワークシート」を用いて、1学期の校内研究を3段階構成で分析し、2学期の取組にどうつなげるかを考えていただきました。

